

那加三だより

学校の教育目標 「力いっぱい やりぬく子」

「活動の様子」をHPからもご覧ください！ 「那加第三小学校日記」 <http://naka3sho.jugem.jp/>

那加三小学校
学校だより
H29. 2. 20

【平成29年2月11日付け 中日新聞（20面）より】



6年生の「防災教育」で 地元消防団員から学ぶ！

2月10日（金）の3、4時間目に、6年生が学級毎に防災教育の授業を行いました。大変寒い時期でしたので、防災倉庫前で行うという当初の計画を変更しました。しかし、「東日本大震災」の3月上旬の東北地方、「阪神淡路大震災」では、1月下旬の関西地方を想像すれば、本当に大変な避難所生活だったであろうことは想像できます。このことだけでも学習する意義はあると思います。

今回は、各務原市役所防災対策課の職員の方に来校してもらい、大災害時に学校が避難所となることの意味や実際に防災備蓄倉庫に様々な物品が収められていること、何人用に、何日分蓄えられているのかなどを教えてもらいました。

続いて地元で普段から活動しておられる消防団員5名の皆さんから、備蓄品の中からいくつかを選んで操作の仕方や注意点などを教わりました。子どもたちにとっては、簡易トイレの組み立てや発電機の使い方、担架やリヤカーの使い方など、初めて経験することばかりでしたが、避難所となる小学校のことを一番よく知っている自分たちの役割を自覚できたようでした。また、事前学習や授業後の感想文からは、避難してくる方が、お年寄りや病気で苦しんでおられる方、小さな子どもを抱えたお母さんなどをイメージして、「避難所生活でイライラしてくることもあるだろうから、体育館にやさしい音楽を流したい。」とか、「小さい子が退屈してしまうだろうから、一緒に遊んであげたり、図書委員として絵本の読み聞かせができるかも知れない。」など、自分がやれそうなこと、貢献したいことなどを具体的に考えていました。

最後に消防団の代表の方から、「いざという場合、私たち消防団員は火災現場や被災現場にかけつけてしまうから、この体育館には来られません。避難所のスタートは本当に皆さんの力が頼りになると思います。」というコメントがありました。お手伝いという感覚から、自分たちも地域の中で活躍する一員という自覚が芽生えた一言であったと思います。

テレビ局や新聞社など、報道機関も取材に来てくださり、防災教育の重要性を改めて感じる事ができました。

青少年育成市民会議主催

「家庭・地域・絆」の標語入選作品から

「あいさつ」「親切」「助け合い」をテーマに標語募集が行われました。那加三小校区から多くの応募がありました。先日、最優秀賞を獲得

された人たち（小学生6名・一般1名）の表彰式が行われました。それらの作品を紹介します。



【写真：青少年教育課より提供】

「おはようは みんなをつなぐ あいことば」
「たすけ合い しあわせつろう 自分から」
「だいじょうぶ？ そのひとこえで ほっとする」
「ありがとう えがおあふれる 合い言葉」

「つらいこと だれでもいいから はなそうよ」
「あいさつで 絆深まり、支え合い」
「助けよう その手を一つ さしのべて」

※応募総数：489点

～どの作品も、場面や光景が目には浮かび、自然に笑顔があふれてきます！～